

【K農園におけるアスパラガス比較試験】

実証経過

産地 : 島根県大田市

- 圃場の特長 :
- 2021年、GE・ビガー散布・無散布のビニールハウスを設定し試験を開始
 - 2022年は比較するハウスを相互に入れ替え実施
 - 無散布で斑点病が発生したハウスにGE・ビガーを散布
 - 2021年散布ハウスは無散布としたが、3列の内最左列は散布することとした
 - (1) 2年連続散布の効果確認
 - (2) 他の2列は前年散布残効確認
 - 連作障害（アレロパシー障害）の経年確認(2年目)
 - 病害確認及び収量確認

GE・ビガー散布時期 : 2022年4月

収穫時期 : 2022年5月28日

GE・ビガー散布ハウス外観



経過観察

■ 実証試験の概要

2021年、GE・ビガー散布・無散布のビニールハウスを設定し試験を開始し、翌年は比較するハウスを相互に入れ替え実施

- ・ 無散布で斑点病が発生したハウスにGE・ビガーを散布
- ・ 散布ハウスには無散布としたが、3列の内最左列は散布とし
(目的:(1)2年連続散布の効果確認 (2)他の2列は残効確認)
- ・ 連作障害（アレロパシー障害）の経年確認(2年目)
- ・ 病害確認及び収量確認

■ 散布方法

- ・ 2021年同様、点滴灌漑により毎月1回定期的に散布する
- ・ 2021年同様、葉面散布を毎月1回実施している

■ 作業の進捗

- ・ 2020年まで成育及び収量が思わしくなく、効果の程は未知であったが、何かしらの効果を期待し以下の改善策を施している
- ・ 2021年畦面消毒及びハウス締切・春芽収穫・灌水等を進め、4月よりGE・ビガーの灌漑散布を開始した毎月1回地表面から浸透させる形で追加している
- ・ 本年も、同様の形で春芽収穫・立茎・追肥・防除等を行い現在夏芽収穫期に入っている

散布ハウス 2022.7.30撮影



【7月末現在日々管理されており、葉態は安定して風通しの良い状態で刈り込まれている。立茎のバランスも整っている。酷暑下でも葉先の枯れが見受けられず、夏芽は薄緑色で手触りも良く柔らかそうに見受けられる。】

無散布ハウス 2022.7.30撮影



【最左列のみ今年もGE・ビガーを散布している。他の2列は無散布となっているが昨年散布の残効がある様だ。継続的に確認が必要。葉摘い、立茎、発芽の状況は、散布ハウスに遜色ない成育が確認できる。】

【アスパラガス生育状況の散布/無散布 比較試験 (K農園)】 【総括】

実証場所：島根県大田市
実証期間：2021年4月～継続中
実施内容：アスパラガスによるGE・ビガーの効果確認
実施者：株式会社地球環境EDジャパン

■栽培条件

- ・ 土壌改良材GE・ビガーを散布したものと無散布のもの
とを比較する
- ・ 比較するハウスを前年と相互に入れ替え試験を実施

■栽培方法

- ・ JAアスパラ部会作成
の肥料ごよみによる
(非公開)

■生産者様による総括

視点

今年は、対象ハウスを逆にした

- ① 昨年GE・ビガー無散布のハウスに斑点病が発生しており、今年、罹患状況を確認する。
 - ② 昨年散布したハウスでは1列のみ再散布を行い様子を観察する
 - ③ 残りの2列において、病害の確認と残効の様子を見る
- ・ 現在、真夏の暑い時期に収穫量が落ちる時期でもあるが、全く落ちることなく収穫されている
 - ・ アスパラガスは太く変形が少なくなっている。また、先端が開くこと無く大きくなっている
 - ・ 手触りがよく、やわらかい薄緑色の作物となっている
 - ・ 特に地表散布を丁寧に行い、葉面散布も行っている
 - ・ 現状、病害は発生していない

考察

- ・ 収量が上がり、病害の兆候はなく堅調に推移している
- ・ 注目は、昨年GE・ビガーを散布し今年無散布の2列について、残効があるのではないかと考えており、今後の推移を確認していきたい
- ・ また、昨年斑点病に罹患したハウスでの推移を確認したい
高温化での葉枯を確認しておらず、勢いのある樹勢となっている

今後の課題

- ・ 耐病性の状態を確認する（斑点病・茎枯れ病など）
- ・ 連作障害確認の2年目となるが発芽、枝張りの状況共に観察する
- ・ 収穫終了までの各条件における成果確認を行う

最左列GE・ビガー散布畦面状況



無散布畦面状況

